

hamanaka
⑫ スクランブル



(春を呼ぶ霧多布港湾風景)

霧多布の「一の通り」に平行する港湾通りは近年まで拡張、整備されてきた。恰も早春の北国の空に溶け込むような淡いブルー・グレイの優雅な霧多布大橋を渡り、袂をすぐ左折し、左手に船着き場や架台にあげた意外に大きな休漁中の船団の数々を眺め走る…。

信号がなく、漁業者や関係者もスイスイ見通しが抜群によい。漁協の倉庫や建物群を含め、その端に白灯台や離れ波止場の赤灯台も一つかみに見える。

ことし、雪が舞い始めの日没の頃、波止場を視野に走っていた。一昔前のことだが新聞の歌壇で、歌人の馬場あきささんの選評が面白く、選に入った秋田の山田富太郎さんの、日本海に降りしきる雪景色の歌に感銘したことを思い出した。

さんさんと夜の海に降る雪みれば
雪は綿津見のくらすを知らず

横殴りに降る雪の風景をふと想い浮かべた。

(ペン&スケッチ 小椋昭三)

ひとのうごき

1月末現在 (前月比)

- 人口：6,677人 (0)
- 男：3,238人 (- 1)
- 女：3,439人 (+ 1)
- 世帯数：2,450世帯 (+ 8)



おたんじょう

- 暮 届 別 三上 雄大くん (大輔さん)
- 霧多布東四区 川村 千佳ちゃん (修一さん)
- 琵琶瀬共交 奥谷 乃菜ちゃん (一秀さん)



お く や み

- 茶内若葉 田中 正人さん (60歳)
- 奔 幌 戸 中山 タケさん (84歳)
- 茶内橋北東 相馬阿璋子さん (93歳)
- 水取場 橋本 鉄三さん (81歳)
- 暮 届 別 宮平 榮市さん (84歳)



俳句

はろばろと雪野の涯を馬越ゆる

湿原にひたすらに舞う春の雪

寒茜製乳工場始動せり

道広く役場通りの火防線

怒涛立つ岬の灯地平線

福沢 睡蓮 (茶内)

小椋 昭三 (暮届別)

酒井 梅子 (茶内)

鈴木 徹夫 (霧多布)

吉本 弘 (霧多布)

短歌

荒涼の雪野へと去る野兎の瞳がいつよりか胸処に住みぬ

白樺は大雪の朝厚化粧して陽に映ゆるやにはや立春や

花教へに行く娘見送り帰れば哭いて喜ぶ犬の純情

風は野を自在に遊ぶ湿原に枯れて春待つ葦を鳴かせて

松永 真澄 (茶内)

二瓶 良子 (茶内第三)

福沢 睡蓮 (茶内)

相原 睦子 (茶内)